

卒業15周年 再会を喜ぶ

平成9年卒同期会

平成24年1月2日、平成9年卒業生の卒業15周年記念同期会を大町ビルにて開催いたしました。恩師6人を含めた総勢72人の出席でしたが、会場内は席に着く暇がないほどの盛り上がりを見せ、出席者は卒業10周年の同期会以来、5年ぶりの再会を喜び合いました。

この会をきっかけに再び親交をもつようになつたという声や、参加できなかった人からの、次は出席したいという声もあり、幹事一同うれし



限りです。この親交の輪が今後も広がっていくことを願っています。(菅原優理子記)

青春とは 心の若さ

卒業55周年を祝う

昭和31年卒

平成23年9月4日、畑澤、山谷両先生にご臨席いただき、女性8人を含む同期生52人が集い、卒業55周年―秋高31会―を大町ビルで開催した。校歌5番までの斉唱に続き、90人に及ぶ物故者に黙とうを捧げた後、幹事あいさつ、恩師ごあいさつ、乾杯、懇親、



と時は流れた。

乾杯のあいさつに立った東京会・渡辺三佐男君から、本家秋田の31会も組織として体裁を整えるべきで、町田睿君を会長として活動したらいかが？との発議があり、満場の拍手での賛同を得た。

当日は新幹線の事故があり、最も遅れた3人は2次会からの参加となったものの、前回から3年ぶりということや卒業以来の再会という人たちもあり、また、春の叙勲で旭日双光章を受章した平澤健治君の詩吟の披露もあり、懇親会は大いに盛り上がり大成功だ

った。後日、畑澤先生からは、「あのような元気のある皆さんから大きな刺激をいただいたことや、卒業後初めて再会という方ともお会い出来、本当にありがたいございました」というお便りもいただいた。

2次会は30余人が出席。駅前校舎当時のバンカラ時代にタイムスリップした気分でした。笑い、あるいはカラオケで絶唱し、晩夏の残暑を吹き飛ばした。青春とは、心の若さをいう。70代の青年が実践した。卒業55周年―秋高31会―だった。(松野 厚記)

優勝請負人として名高い中村和雄氏(昭34卒)が、昨年9月にbjリーグ秋田ノーザンハピネットのヘッドコーチ(HC)として来秋した。

OB会は昨年9月16日、秋田市のイヤタカで同氏の歓迎会を開催した。43人のOBが出席して和やかな雰囲気の中で最初に嵯峨榮一会長(昭33卒)が口火を切り、インターハイ出場のエピソードなどについて語った。

続いて中村HCがあいさつに立ち、秋田に来ることになった(蒔苗氏との)秘話を披

露するとともに、「秋田ノーザンハピネットを有明に連れていくことはもちろんのこと、優勝するために秋田にやってきました」と力強く決意を表明した。この後出席者で紅一点・最年少の齊藤由紀子さん(平14卒)が花束を贈呈

闘将・中村氏 秋田に現る バスケットOB会歓迎会

中村HCの恩師でありインターハイ出場の立役者、渡邊淳司元顧問の発声で乾杯、祝宴が始まった。ほどなくト

クタイムに入り、トップバスターはハピネットの試合ではいつも最前列で声援を送っている最強ブースターの一人、半田俊毅氏(昭36卒)が熱弁をふるった。続いて神奈川県から駆け付けた松村東一氏(昭37卒)、大阪からの森谷忍氏(昭

56卒)がそれぞれ一言ずつエールを送った。

その後、「最初のあいさつでは物足りない」と中村HC自らが申し出、上着を脱い

で熱いトークが始まった。カズディフェンスの話やハピネットの中学校でバスケットを教えた(い)などについて吠え(失礼?)た。

祝宴もだいぶ盛り上がりつつきたところで、出席者全員で校歌・校友会歌・副歌・応援団歌を大合唱し、「闘将」中村和雄氏のますますの活躍を祈って相沢祐健副会長(昭38卒)が中締め、歓迎会は無事終了した。

秋高バスケットボール部
OB会幹事長 中島 誠

つどい